

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4091300089
法人名	医療法人社団誠仁会
事業所名	グループホームめおといわ「はなみずき」(ユニット名 はなみずきⅠ・はなみずきⅡ)
所在地	福岡市城南区松山2丁目8-3
自己評価作成日	平成31年1月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人福岡県介護福祉士会
所在地	福岡市博多区博多駅東1-1-16第2高田ビル2階
訪問調査日	平成31年2月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

アピール点として、医療に特化したグループホームだと自負しております。夫婦石病院が母体であり、サテライトの松山診療所が施設の隣に併設されており、また、看護師もグループホーム内に3名スタッフとして勤務しています。日ごろの健康管理は、施設看護師で日ごろから行うことができ、早期発見に努めております。また、異常を発見したら松山診療所と連携をとり、医師が往診にきたり、受診にすぐに行くことができます。
診療所の医師も、1人に対し月に2回往診に来られ、健康状態を見てくれております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所の母体病院は、在宅生活を支える医療・介護のサービスを地域に数多く提供しており、グループホームはその中の一つとなっている。事業所の1階には小規模多機能型事業所とデイサービスで、2階が2ユニットのグループホームとなっている。2階グループホームの玄関をはじめ、様々な手作りの飾り物などが温かく迎えてくれる印象があり、家庭的雰囲気が漂っている。また、職員と利用者のコミュニケーションがよくとれており、利用者の笑顔となって表れている。管理者交代から間がない中で、外部講師を招いて職員全員と一緒に理念の意義と大切さを学び、謙虚な姿勢でありながらももしっかりとした組織作りや、利用者に寄り添った介護計画の実施、統一したケアを職員が一丸となって取り組めるよう努めている。常に理念に立ち戻り、一人ひとりのケアを実施している。今後、ますます地域と共に歩み続けることが期待される事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフルームに理念を掲示しており、いつでも見れるようにし、ミーティングの際は、皆で理念を読み、理解するように努めている。そして、スタッフ一人一人理念に基づいてケアを行うよう努めている。	「理念」ということについて外部講師を招いて深く掘り下げて学んでおり、当事業所の理念は職員に浸透し、利用者へサービスを提供する上で意識づけがなされている。創設から約7年経ち、地域との関わりももっている。地域密着型サービスの事業所としての理念の見直し、検討はされていない。	開設以来、7年間地域に根づいた事業所の現状を振り返り、地域密着型サービスの意義や社会的役割を踏まえて、現在の職員皆が共有できる言葉で理念について見直す機会を持つことを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議を2か月に1回行い、地域と交流している。また、ボランティアの方も、月に2回ほど来てくださっています。	自治会には加入していないが、事業所の行事案内について町内で回覧してもらっている。地域の祭りに参加したり、散歩の途中で、近隣の人や保育園の子どもたちと話をしたりしており、日常的に交流をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて、地域の方を招き認知症の勉強会を時折行っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	上記にもありますが、中々地域の方を大勢呼んで発信する機会がなので、家族のニーズを聞き出したり、近況報告を行ったり、勉強会を行ったりしています。	開催日により異なるが、区保健福祉センター、地域保健福祉課、地域包括支援センター、区社協、自治会長、民生委員、地域看護学の先生、他のグループホーム職員、管理者等の参加で奇数月に開催している。事業所報告、前回の外部評価後の目標達成計画についての実施状況やさらなる取り組み課題、意見交換がなされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	中々日ごろから担当者と話す機会がなく、積極的には行っていない。運営推進会議にての報告のみが現状です。	区役所や地域包括支援センターの電話番号を目につくところに置いて、何時でも連絡できるようにしている。制度改定のわからないことや疑問点等、家族の問いかけに応じる為にも行政との連絡をとっている。研修案内が来た時は、参加させている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービスにおける禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	基本的には、身体拘束は行わない方針であるが、家族希望など、やむを得ない場合には、同意書もらい行っている。また、月に一回身体拘束の会議を行い、カンファレンスを行なっています。	身体拘束防止委員会を作っている。「待ってね」等言葉による行動の制止に該当するような場面を見つけた場合は、リーダーを中心に機会をみて注意している。職員全体が意識して自由な暮らしを支援している。安全のためやむを得ず身体拘束をする場合も、利用者の立場になり、支援方法を検討している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待にのみ固執した勉強会は頻繁には行っていないが、常に現場で声をかけあい、虐待(特にスピーチロック)に気を付けるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	中々学ぶ機会を持つことは難しく、行っていない。活用する際は、行政やケアマネなどに相談し行っている。	法人内の教育委員会で研修年間計画を作成しており、年1回は権利擁護の研修をしている。権利擁護に関する制度を利用中の方がおり、職員は概ね内容を理解している。相談があれば職員は管理者へ繋ぐ体制ができています。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、毎回契約書・重要事項説明書を読み理解してもらうようにしている。また、その都度不明な点があれば、解決するようにしている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	外部に意見を表せる体制は、出来上がっていない現状です。しかし、現場に家族の声が上がれば、すぐに改善するように努めております。	意見箱の設置はないが、事業所の意見等の受付窓口や外部の窓口は重要事項説明書に10ヶ所記載している。家族の訪問時には職員とゆっくり話す姿勢を持っており、話しやすい雰囲気がある。また直接電話で言って来られることもあり、小さな事柄にも対応している。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一回ミーティングを開き、現場の声を聴き反映させるようにしています。	管理者、リーダー、サブリーダーと組織作りをしているところで、相談するに当たっては話しやすく、提案が反映されている。これまでの事例として、記録に関して必要なものを購入したり使いやすくしたりしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人手不足という現状が、環境作成に響いているところがあります。一人一人の評価は、客観的に行っております。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮し生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	極力、個性を大事にしています。男女・雇用形態・年齢で差別することは行っておりません。	採用にあたり、性別や年齢で排除することはなく、介護に対する気持ち・熱意を大切にしている。書道・絵・折り紙・ギター等職員の得意なことを発揮しながら生き生きと働いている。資格取得に向けてや、地域や学校等の活動についても社会参加できるよう配慮している。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	月に一回全事業所の勉強会があり、その際に入権や啓発の勉強を行っております。	法人内教育委員会の年間研修計画の中にパワーハラスメントやプライバシー等について学ぶ機会がある。更に人権教育にも取り組んでいる。行政からも研修案内があり、参加した者が報告研修をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修等、職員に推薦しているが、マンパワー不足にて、研修の時間をもうけてあげることができていない。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	松山介護事業部内で積極的に勉強会に参加している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	可能な限り傾聴し、ニーズに答えられるようにしています。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ケアマネがしっかりニーズを抽出し、サービスに反映させてます。また、施設に来られた際は、コミュニケーションをとり、要望があれば、すぐに対応するようにしている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	職員でカンファレンスを行ない、実行し評価している。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	笑顔と尊厳を持ちながら対応を心がけている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と入居者(ご家族が代弁者となりますが)様に寄り添ってケアを行うようにしております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や知人の面会に制限をかけておりません。また、家族や知人の外出にも積極的に行ってもらおうようにしています。	家族の協力を得て近くの大きな公園や、海、店・外食等、これまでに関わってきた所や馴染んできた所へ出掛けている。これまでの関係が途切れないように親戚縁者が集まる仏事などにも出席している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士がトラブルにならないように配慮しながら、共通の話題や嗜好に沿った関わり方をして頂けるように配慮しています。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去されても、一年は年賀状を送ったり、レクリエーションの参加を呼び掛けたりしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者一人一人の思いをくみ取り少しでも希望の持てるような声掛け・同調・共感して頂けるよう心がけています。	職員は担当制であり、利用者との会話の中から趣味、好み、生活習慣等を聞き取っている。会話が少ない利用者からは日頃の表情や仕草を観察し、家族からこれまでの生活歴を聞いて本人の希望する生活をくみ取っている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時家族や事業所から今までのサービス内容やその方の生活歴や暮らし等生活全般の情報把握に努めている。また日ごろの利用者やご家族との会話の中から情報をとり、支援に活かしている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタルチェックで健康管理を行い、傾聴などで、心身の状態の把握に努めている。そして、経過記録や申し送りで情報の共有に努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に1度カンファレンスにてモニタリング・評価を行い追加・削除・修正を行ない、ケアプランに落とし込まれている。ご家族には、接点があった際、意見を聞き、それもプランに落とすようにしている。	介護計画は計画作成担当者が、利用者、家族、職員から情報を収集し作成している。月1回のモニタリングでは職員間で意見を出し合い、必要に応じて随時の計画見直しを行い、計画に沿った介護が実践できるようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画は、個々の利用者の生活状況や心身の状況を客観的に記録するように努めている。日々の申し送りや連絡帳を活用して、職員間の情報共有を行ない実践し介護計画に活かしている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	介護計画を基にサービスを提供していても、状況により利用者のニーズは変化するためその時のご本人の状況に合わせて柔軟な対応が出来るようにスタッフ間で考えを統一しています。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の夏祭りや餅つきイベントへ参加し、地域と友好を深める機会を作り、運営推進会議に地域の自治会長や民生委員の参加をお願い交流を深めるようにしています。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	隣接の松山診療所が連携病院であることを説明し安心も込みで契約している。月2回往診に来られ救急対応をされる。毎朝看護師も状態を見に来られる。紹介状も直ぐに書いてもらえ、外部の在病院にスムーズに受診することもできる。	馴染みのかかりつけ医の継続ができる説明をした上で、協力医の往診を受ける利用者が多い。随時の連携がとれ、必要に応じて大学病院での精密検査や専門病院へつなぎ、異常の早期発見が図れている。他科受診には職員が付き添い、病院・事業所・家族との情報共有ができています。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同法人で隣接の松山診療所と連携を結んでいる。往診と臨時往診を行なってもらえる。医療処置は、松山診療所の看護師が行ってもらえる。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、看護添書、サマリーを持参し職員が付き添い報告を行う。管理者がご本人の状況や家族の意向・病院の意向など含めた相談役を担っておりカンファレンスへも参加している。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に看取りの説明を行なっているが、重度化した際、もう一度管理者・かかりつけ医とムンテラを行ない看取りの同意書を書く。その際看取りの介護プランを作成し、スタッフ・家族・医師で協力し、最後を迎えて頂いています。	重度化の段階に応じ、医師を交えて利用者・家族の意向を確認している。医師・看護師との連携を密に取り、家族を含めたチームで方針を話し合いながら、看取り介護が取り組まれている。家族は付き添うだけでなく、職員と共にオムツ交換等、実際介護に携わることで、悔いを残さない看取り介護を実践している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	グループホーム管理者が看護師であり症状別経過観察・報告の流れを作り見守り台においてある。また、スタッフ一人一人が全員持っている。事故発生時のマニュアルは職員の周知徹底に努めている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	外部講師を招いたり防災委員会をあり話し合った内容はカンファレンス等で周知させている。消防署立ち合いのもと、定期的に防火訓練を年2回はしている。その際地域の方参加もある。	消防設備は業者の点検と、定期的に自主点検を行っている。火災避難訓練は、同施設内の他事業所と合同での開催と単独訓練を、消防署の指導助言を受けて実施している。訓練には地域住民の参加が得られており、役割の依頼も出来ている。非常食料・水・備品の準備もある。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は利用者様一人一人の尊厳を守るような言葉、さりげない見守り利用者のプライバシーや人格に配慮し職員間でも注意しながらサービスを提供している。	管理者は月1回のミーティングや各会議等で、個人情報保護の遵守について話をする機会を設け、周知徹底を図っている。呼称は「さん」付けで声掛けし、訪室の際はノックをし、了承を得てから入室している。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に落ち着いた空間を作り、寄り添った会話、レクレーションなどを提供し、働きかけている		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースを大切にしながらその日の過ごし方中心に送れるように支援している		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝更衣時に整容を行っている。髭剃り、化粧も行える人には、声掛け、実施している		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材は、業者に頼んでおり、ある程度は画一的ではあるが、味の微調整などを行い、より食べやすいようにしている。準備、片付けは、行える利用者がおられず、スタッフがやっている	副菜は外部業者を利用し、炊飯と汁物は事業所で調理している。ご飯が炊き上がる匂いや包丁の音は食欲を促進している。利用者持参の箸、お椀、コップを使い、器は彩どりのある陶器やガラスに盛り付け、家庭的な雰囲気のある食卓である。職員も同じテーブルで同じ食事を摂り、心地よい音楽の流れる中で会話を楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリー計算は、業者が行っており、問題はない。食思低下されているかたには、高カロリー食を提供している。水分補給は声掛け、介助にて気にかけて提供している		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来る限りトイレ誘導を行っているが、難しい方は、やむを得ずオムツにしている。	リハビリパンツを使用中でも、排泄チェック表でパターンを確認し、トイレ誘導をすることで日中は下着で過ごせるように改善した事例がある。トイレは常に気持ちよく使用できるよう掃除を徹底し、個人の物品はトイレ内に置かないようにしている。オムツ使用の場合は、羞恥心へ配慮し自室でドアを閉め、排泄介助を行い、いつも気持ちよく過ごしてもらうよう努めている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表を作り、管理している。食事は、業者に頼んでいるので、中々食事調整は難しい。便秘には、下剤調整を行っている		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日を決めているので、本人のニーズに合わせる事は、中々難しい。	週2回入浴時間を設定しており、利用者の希望があれば適宜検討していくことはできる。お湯を出しながらかけ流し風の入浴を楽しんだり、習慣からシャワー浴を好む場合は身体が冷えない工夫をしたりして、一人ひとりの好みに配慮している。お湯にしっかり浸かり笑顔がみられたり、懐かしい話や本音をしみじみと話す場面があり、職員もゆっくりと話を聞き対応している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	基本、賃貸なので、ホールの消灯時間はあるが、室内では、自由にいただいている		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	介護士が多く、薬の事は弱い。適時看護師が指導をしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家族や本人から昔の事を聞き出して、それを行動に活かせるように工夫し、協力している		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日などは近隣に散歩に出かけたり、花見・地域のお祭りなど季節を感じられるような催しには積極的に参加している	気分転換をかねて天気が良い日は近所に散歩に出かけ、幼稚園児とフェンス越しに会話を楽しむことがある。寒い季節は1階の小規模多機能事業所へ遊びに行き、交流を楽しんでいる。外出することが少ない利用者はウッドデッキで日光浴をする等、外気に触れる機会を作っている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金を持つことは、トラブルになりかねないので、遠慮して頂いている		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	正月には、家族や友人宛に年賀状を書いていたいたりしている		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室内の温度調節は、細目になっている。また、季節ごとに、特化した飾り付けを行い、季節感を出している	ホールには加湿器・空気清浄器の設置があり、室温管理も徹底され、採光も程よくあり気持ちよく過ごせる環境となっている。民生委員から寄贈の雛壇や、利用者や職員で作成した壁飾りで季節感を採り入れている。食卓や丸みのあるソファは利用者同士の談笑の場になっている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士が仲良くなれるよう、スタッフが間に入り、コミュニケーションをとっている		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	昔使っていたもの、馴染みのあるものなどを、居室に飾ったりして、居室により似た空間作りを行っている	各居屋のレイアウトは、仏壇、鏡台、ソファなど自宅で馴染みの物を持ち込み、本人と家族で相談しながら、使いやすいように配置している。臥床していることが多い利用者の居室には、拡大した家族写真を壁に貼り、家族に見守られている雰囲気を出す工夫をしている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	IADLをスタッフが理解し、出来る限りの事は、本人に合ったアクティビティーを行ってもらえるようにしている		